

八戸道雪氷基地改修工事について

木越 大樹 *1

1. はじめに

ネクスコ・メンテナンス東北八戸事業所は八戸自動車道66.4km、百石道5.2km計71.6km八戸基地、軽米基地、一戸基地、八戸北基地の4つの雪氷基地を雪氷対策作業の拠点として利用している。冬期間における高速道路の交通確保は、お客さまの安全を確保すると共に安心して利用できる高速道路を提供することが重要である。そのためには雪氷対策作業が必要であり、雪氷基地は日中の作業や夜間作業において雪氷作業従事者の拠点となる重要な場所となる。

本稿では、収容人数に応じた仮眠スペースの確保及び快適な労働環境設備の設置と将来における女性オペレーターの雇用に対応すべく、女性専用棟を新たに設置する為に平成28年度に行った八戸雪氷基地の改修状況について報告するものである。

2. 八戸管内の雪氷体制について

八戸管内における大雪予報時（降雪16cm以上）の雪氷作業従事者の人員編成を表-1に示す。

雪氷基地	従事者（人）	備考
八戸基地	12	連絡員、梯団等
軽米基地	19	梯団等
一戸基地	21	連絡員、梯団等
八戸北基地	8	梯団等

表-1 大雪時（16cm以上）の招集体制

3. 各雪氷基地の収容面積と人数について

八戸管内における4つの雪氷基地は、事務室、仮眠室、シャワールーム、湯沸室、トイレ、乾燥室、分煙室等それぞれが大雪時の最大招集体制を取った際に収容面積の不足や、整備がされていないことから各施設の増設や新設を検討した。それぞれの収容面積と人数を表-2に示している。さらに、女性棟が設けられていないことから新たに新設をした。

雪氷基地	事務室 1.5㎡/人	仮眠室 2.2㎡/人	浴室 10.0㎡	湯沸室 0.35㎡/人 最低7㎡
八戸基地 現状面積 必要面積		38.31 26.40	無し 新設	無し 新設
軽米基地 現状面積 必要面積	25.2 28.5	33.41 41.80	1.84 10.00	4.20 7.00

雪氷基地	トイレ 0.32㎡/人 最低10㎡	乾燥室 0.27㎡/人 最低6㎡	分煙室	
八戸基地 現状面積 必要面積	2.62 10.00	無し 新設	無し 新設	
軽米基地 現状面積 必要面積	7.01 10.00	無し 新設	無し 新設	
一戸基地 現状面積 必要面積	1.7 10.00	無し 新設	無し 新設	
八戸北基地 現状面積 必要面積	4.78 10.00	無し 新設	無し 新設	

表-2 収容面積と必要面積

4. 八戸基地改修の概要について

新設箇所については乾燥室（写真-1）、湯沸室（写真-2）、分煙室（写真-3）、女性棟を新たに設置し、仮眠室、シャワールーム、トイレはそれぞれ必要面積分を増設をした。

(1) 乾燥室の新設

雪氷基地の出入り口付近に設置することにより、作業等で濡れた雨具や防寒具を事務室内へ持ち込まなくて済むようになった。



写真-1 乾燥室

(2) 分煙室と湯沸室の新設

分煙室と湯沸室は、雪氷作業従事者から設置してほしいとの要望もあり、雪氷詰所改修基本方針等から設置することを検討し新たに設置した。分煙室においては、多くの雪氷従事者が室内に待機する中で喫煙者、非喫煙者がいるため分煙しお互いに、快適な環境を与えるために分煙室を設置した。

*1 株式会社ネクスコ・メンテナンス東北 八戸事業所



写真-2 湯沸室

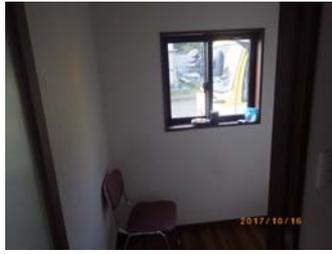


写真-3 分煙室

(3) 女性棟の新設について

将来における女性オペレーターの雇用に対応するため、女性専用棟を新たに設置した。写真-4は女性棟の内装を撮ったもので、白を基調としているため清潔感がある内装となっており、ピンクのカーテンで女性らしい部屋の造りになっている。



写真-4 休憩室（女性棟）



写真-5 仮眠室（女性棟）

5. 仮眠室について

(1) 仮眠室の2段ベット化

雪氷対策期間中は雪氷基地に滞在する時間が多くなり、雪氷従事者の雇用確保の観点からも快適な仮眠室の整備が重要な課題となっている。畳部屋の布団を使用していた仮眠スペースをフローリング化し2段ベットを設置することで限られたスペースの有効利用を図った。2段目のベットの床と1段目の天井が独立した構造で静粛性に寄与した造りになっている。写真-6は仮眠室（2段ベット）の外

観を写したものとなっている。



写真-6 仮眠室（外観）

(2) プライバシーの確保

これまでの仮眠室は、畳部屋で雑魚寝状態であったが、今回設置した2段ベットは個々が完全に仕切られており雪氷作業従事者のプライバシーを確保する造りとなっている。



写真-7 仮眠室（内装）

6. まとめ

今回の雪氷基地改修工事で仮眠スペースを2段ベット化し、大雪予報時や通行止めが予想される状況下においても、最大に招集した雪氷従事者全員の仮眠スペースを確保すると共に、プライバシー保護の確保をすることができた。雪氷対策作業は、過酷で特殊な環境での業務であることから、短い休憩時間の中でどれだけ身体を休ませることができ、より快適な労働環境を雪氷作業従事者に提供できるのかが重要な課題となってくる。快適な環境を提供することにより、労働者の継続雇用等にも繋がり、雪氷作業従事者のモチベーションも上がることが期待される。また、地震等の災害時においても被災した関係者家族等の一時避難先としての活用も視野に入れるものである。

今回の雪氷基地改修工事をきっかけに、現在改修工事を行っている一戸基地を初めとする、軽米基地、八戸北基地の改修工事を行っていき、より良好な労働環境の確保に努めていきたい。